

第3回マチミチ会議（ウェビナー形式）

開催レポート



【第3回を迎えたマチミチ会議は、コロナ禍に対応しウェビナー形式で開催！】

「この街路から、まちが変わる」のキャッチフレーズを掲げ、一昨年度より毎年開催している「マチミチ会議（正式名称：全国街路空間再構築・利活用推進会議）」の第3回会議が、令和3年3月4日に開催されました。

いまだ続くコロナ禍において、今回はウェビナー（オンライン上で実施するセミナーや講演等）形式で開催されました。全国の同志が一堂に会することは叶いませんでしたが、どこからでも視聴が可能なウェビナー形式だったこともあり、第1回の212人、第2回の303人の参加を大幅に上回る500人以上の参加申し込みがありました。

会議のプログラムに入る前には、前回のマチミチ会議でも活躍したリアルタイムでコメント投稿や投票ができるシステム「Sparkup」を活用したアンケートが実施されました。年齢や参加している地域、路上でやってみたいこと、街路活用についての周囲の盛り上がりなどに関する質問が投げかけられ、全国から多くの回答が集まりました。



Spark Up の画面

以降、今回のマチマチ会議のプログラムに沿って、

- 全国の視聴者へ力強いメッセージ 国土交通省都市局長 榊 真一氏による開会挨拶
- 『ストリートイノベーション ミチからマチを変革する』野原准教授による基調講演
- 「みっけるみなぶん」ほか、横浜市におけるウォークアブルなまちづくり事例発表 及び「県庁通り 歩いて楽しい道路空間創出事業」岡山市のウォークアブル事例発表
- 視聴者との双方向コミュニケーション 「Sparkup」を活用した質疑応答
- ポータルサイト開設やストリートデザインガイドライン改訂も含む国交省からの情報提供の順にレポートします。

全国の視聴者へ力強いメッセージ 国土交通省都市局長 榊 真一氏による開会挨拶

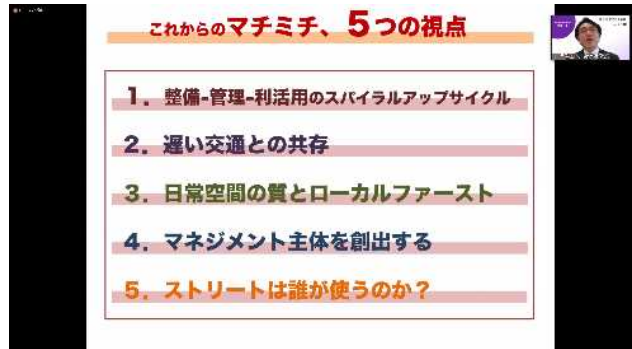
会議の冒頭には国土交通省都市局長 榊 真一氏による開会挨拶があり、その中で「居心地が良く歩きたくなるまちなかが必要である。それはなぜか。まちなかに多様な人々が集い、交流し、滞在する。そんな空間があれば人と人との新たな結びつきが生まれ、コミュニティが生まれて、自宅でもない、職場でもない居心地の良い第3の場所『サードプレイス』が生まれる。そういった空間は私たちの生活を豊かにし、偶然の出会いから新たなアイデアが生まれ、地域の課題解決や新しいビジネスにつながる。」と、コロナ禍や新たな生活様式に対応した将来のまちづくりのためにもウォークアブルなまちなかづくりが求められていることを力強く語りました。



開会挨拶を行う榊局長

『ストリートイノベーション ミチからマチを変革する』野原准教授による基調講演

プログラムの1つ目である基調講演は、横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 野原 卓准教授より、『ストリートイノベーション ミチからマチを変革する』という題目で行われました。



野原准教授による基調講演

野原准教授は、道路を含む移動（交通）そのものが変わってきたという話題から入り、「まずは「みち」とはそもそも何なのか？」といった素朴な質問を視聴者へ投げかけました。野原准教授はこの答えを以下の4つに整理し、身近な例や私たち自身に置き換えて解説されました。

- ①人生で最も多く使う外部公共空間
- ②「公共」空間の一つであること
- ③道路＋沿道/地域の融合体
- ④移動と滞留(活動) の両立する場

例えば①については、「みち」はほとんどすべての人が、しかも毎日使う外部公共空間であり、ストリートが豊かであることは豊かな生活の基本、むしろ生活そのものである、と解説しました。

このように「みち」が何なのかを解説した上で、これからのマチミチに必要な5つの視点を以下のように語りました。

【1. 整備×管理×利活用のスパイラルアップサイクル】

1950年代から20～30年ごとにスパイラルアップを繰り返す、通りを中心としたまちづくりで我が国を代表する商店街のひとつになっている横浜市の元町商店街を例に挙げ、整備、管理、利活用の循環でまちの価値を高めていくことの重要性

【2. 遅い交通（スローモビリティツール）との共存】

セグウェイなど遅い交通に乗っているときは、前を横切ろうとする人とのコミュニケーションが生じることなどを例に、今後様々なスローモビリティが共存するであろう「みち」を、移動手段だけではなくコミュニケーションツールとしての側面も含めて考えることの必要性。

【3. 日常空間の質とローカルファースト】

横浜市の日本大通りでは、日本大通りに期待する役割を質問したアンケートで「美しい街並み・風景」が最も多かったことを紹介し、地域に愛される「ローカルファースト」なストリートが求められること、また、喜多方市中心市街地で行われた「くらにわ事業」を例に、ストリートと沿道の関係づくりの仕掛け（＝くらにわ）が日常生活の質を向上させること。

【4. マネジメント主体を創出する】

道路占用許可制度を例に挙げ、何らかの形で主体（組織）がないと道路は利活用（占用）できないことから、もともとそのような団体がいないところでは道路空間のマネジメントができないという問題点と、人々のストリートへの関わり方の新しい評価方法についての提案。

【5. ストリートは誰が使うのか？】

横浜市の、公共空間を活用して結婚式を挙げる「オープンウェディング」や、この後横浜市からも紹介のあった社会実験「みっけるみなぶん」で当初想定しなかった路上の使い方がたくさん生まれたことなどから学ぶ、ストリートの使い方を地域とともに考えていくことの大切さ。

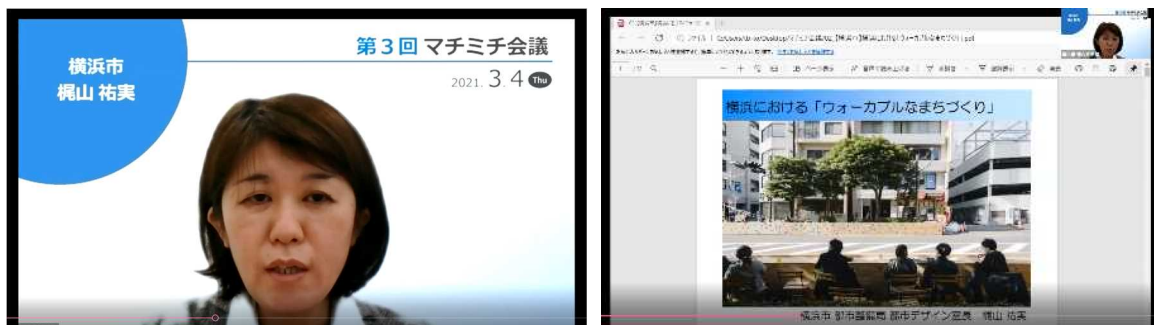


「ストリートは誰が使うのか？」の視点の説明の一コマ（左）と、
基調講演のまとめ「魅力あるストリートライフへのオープンイノベーション」（右）

「みっけるみなぶん」ほか、横浜市におけるウォークラブルなまちづくり事例発表

続いて先進自治体からの事例発表として、今回は、横浜市と岡山市、2都市からの事例発表がありました。

横浜市からは、都市整備局 企画部 都市デザイン室長の梶山 祐実氏が『横浜における「ウォークラブルなまちづくり』』と題して、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路の再整備に向けた社会実験「みっけるみなぶん」と、日本大通りに関する歩道空間活用の取組の2つの事例が紹介されました。



横浜市 梶山氏によるプレゼンテーションは、昨年11月に実施された社会実験「みっけるみなぶん」から

「みっけるみなぶん」は、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路、通称「みなぶん」の再整備に向けた交通規制や断面構成、歩道と沿道の利活用などについて検証する社会実験の名称です。

プロポーザルで選定された委託者とともに大がかりな交通規制やパークレットの設置を実現させた「みっけるみなぶん」ですが、社会実験後のアンケートでは「8割以上の回答者が社会実験を「良い」と評価した」と、実験で得られた手ごたえについて語りました。一方で、否定的な意見として「自動車

渋滞への懸念」などがあったことを受け、来年度以降に引き続きこれらの懸念を解消するための取組や、沿道のプレイヤーとの対話を続けていくとの説明がありました。

また、日本大通りについては、日本で初めての西洋式街路という歴史的背景をもとに再整備された道路であり、地区計画による壁面後退と高さのコントロールなどの取組や、日本大通り活性化委員会による道路空間の利活用の仕組みと現状、今後の展望について紹介しました。日本大通りのような、歴史があり、道路空間におけるオープンカフェ事例として有名な事例であっても、今なお挑戦の途上であるという内容の発表でした。



社会実験「みっけるみなぶん」のパークレット利活用状況（左）と、日本大通りの取組状況（右）

「県庁通り 歩いて楽しい道路空間創出事業」岡山市のウォークアブル事例発表

続いての事例発表は、岡山市 都市整備局 都市・交通部 庭園都市推進課 街なかにぎわい推進室の舌崎 博勝氏より行われました。市中心部の2つの拠点をつなぐ県庁通りにおける、歩いて楽しい道路空間創出事業が紹介されました。事例は「車中心から人中心へ」「道路空間を活用する仕組みの構築」「行政主導からはじまり官民連携のまちづくりへ」の3つの切り口から紹介されました。



岡山市 舌崎氏によるプレゼンテーションは「『県庁通り』って、どんな事例？」という要点整理から

交通管理者協議については、2年間で4回の社会実験を行い、規制のない状態からフェンスを設置した交通規制→区画線の引き替え→区画線+自転車の通行帯の明示と徐々にステップアップしていくプロセスを経てきたことを振り返りました。また、協議において車道を1車線にすることが目的のように扱われてしまったことから、事業本来の目的の理解を深める必要性を感じ、沿道事業者等まちづくりを实践するプレイヤーの発掘や歩道空間の利活用に力を入れていったという試行錯誤があったことについても説明しました。事例発表の中では、公開会議や講演会をあえて県庁通りに面した屋外の駐車場で開催したことなど、多くのノウハウが示されました。



県庁通り横の駐車場で実施した公開会議（左）と、社会実験「1M KENCHO-DORI PROJECT」の実施状況（右）

視聴者との双方向コミュニケーション 「Sparkup」を活用した質疑応答

質疑応答は「Sparkup」というコミュニケーションツールを活用し、視聴者がweb上でリアルタイムに質問や意見を投稿し、その中からいくつかの質問に登壇者が回答するという形式で、野原准教授の進行のもと行われました。



Sparkup に投稿された質問の一部

このコーナーで取り上げられた主な質問と回答内容は、以下のとおりです。

【Q. 岡山市の県庁通りについて、初回の警察協議後の合意形成で留意したことは？】

これについて舌崎氏は、「初回は大型商業施設のオープン時期と重なり交通の状況が読めなかったため、交通管理者との調整ができなかった」という外部要因を説明したうえで、2回目以降はフェンスで仕切る交通規制を行い、次に、フェンスでは実際に実施したい規制とは異なるために、より理想形に近づけるため区画線の引き替えを行ったという手順を説明しました。

【Q. もともとは沿道に商店街がなかった、つまり道路活用の主体がいなかった状態でどうやってプレイヤーを探していったか】

この質問は、まさに野原准教授が基調講演で紹介した「マネジメント主体を創出する」という視点そのものでしたが、岡山市では、沿道の150程の店舗一軒一軒に足を運び、ワークショップへの参加を呼び掛けたこと、それでも初めのころは行政側が10人に対して沿道事業者側の参加者は2名ほどしかないような状態であったことを明かしました。これは横浜市の「みっけるみなぶん」も同様だったようで、野原准教授と梶山氏も最初のワークショップ参加者は3名だったと語りました。

【Q. 横浜市の日本大通りの事例について、合意形成システムはどのようなものか】

この質問に対して梶山氏は「事業者が日本大通りでイベントを行う際には、地域がイベントの趣旨や内容に合意できるかどうかを確認する手順を『道路占用を伴う日本大通りイベント実施ガイド』でルール化している」と、品格ある日本大通りならではの取組を進めていると回答しました。さらに、次の段階としては、地域団体がイベントを主体的に実施するような状態も目指したいと語りました。

(野原准教授から国土交通省 都市局 街路交通施設課 中村課長に対して)

【Q. 地域で警察や公共施設管理者との協議をどのように進めるべきか、そのポイントは?】

中村課長は自身の経験も交えながら「総論賛成という空気をしっかりつくることと、そのうえで継続的にやること」が大切だと語りました。

ポータルサイト開設やストリートデザインガイドライン改訂も含む国交省からの情報提供

質疑応答に続き、中村課長から国土交通省の取組に関する情報提供が行われました。



中村課長による、国土交通省からの情報提供

国土交通省が実施する「まちなかウォーク」支援策や全国アンケートの結果速報の報告に続き、最新情報として「ウォークポータルサイト」の立ち上げ等に関する紹介がありました。ストリートの取組と同様、国土交通省もまちなかウォークの推進で多様な人が参画してまちが賑わうように取り組んでいきたいと語りました。



ウォーカブルポータルサイトの立ち上げに関する告知

以上をもってプログラムは全て終了し、第3回マチミチ会議は閉幕となりました。今回は、コロナ禍の中でウェビナー形式での会議となりましたが、事後アンケートでは参加者から「どこの事例もはじめは賛同者が僅かしかいないところからスタートしたと知ることができ、勇気が持てた」「先進事例から工夫や知見を得ることができ、とても参考になった」「市民生活がより豊かになるように努力していきたい」などの感想が寄せられ、マチミチ会議が今後のウォーカブルな取り組みの更なる広がりの一助となったことが伺えました。

【第3回マチミチ会議 開催概要】

日時：2021年3月4日（木）13：30～15：30

場所：web 会議形式

主催：国土交通省 都市局 街路交通施設課

～プログラム～

■基調講演

横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授 野原 卓 氏

■自治体発表

【横浜市】都市整備局 企画部 都市デザイン室長 梶山 祐実 氏

【岡山市】都市整備局 都市・交通部 庭園都市推進課 街なかにぎわい推進室 舌崎 博勝 氏

■質疑応答

登壇者：横浜市／岡山市／国土交通省

コーディネーター：野原 卓 准教授

■国の取組紹介

国土交通省 都市局 街路交通施設課 課長 中村 健一 氏

第3回 マチミチ会議

2021. 3. 4 Thu

〈プログラム〉

- 13:30 開会
- ▼開会挨拶（国土交通省）
- ▼基調講演（横浜国立大学大学院 野原 卓 准教授）
- ▼自治体発表
 - ・横浜市
 - ・岡山市
- ▼質疑応答
- ▼国の取組紹介・閉会挨拶（国土交通省）
- 15:30 閉会



社会集録「みつまち」（横浜市）



高干道リイメージング（岡山県 岡山市）

本日のご参加、ありがとうございました！

《Sparkupでは会議後アンケートを実施しますので、ご協力よろしくお願いします。》